

和英辞典の記述に関する一考察

——神社社号を中心に——

鈴木 聡

1 緒言

先日研究社の『新和英大辞典第1版～第5版』、そして『新和英中辞典第1版～第5版』が全て揃った。以前より、研究社の新和英大辞典と新和英中辞典の関係や時系列的な流れについて研究を実行してみたいとは思っていたものの、上記の全ての冊数がなかなか揃えられずにいた。そんな折、インターネットの『日本の古本屋』という古書検索サイトがあることを知り、時間をかけて、上記の私が探している古書を検索していた。その結果、上記の和英辞典全てを揃えることに成功した。しかし、上記の辞典の内容すべてに言及するのはすぐには不可能である。そこで、本稿では上記の各辞書を使用して、日本の文化でもあり精神的な支柱である神道に関する記述、即ち社号を例にとって上記の和英辞典の記述内容及びその変化について述べていくことにする。

2 『研究社新和英中辞典』と『新和英大辞典』について

最初に、今回の調査対象とする研究社の『新和英大辞典』と『新和英中辞典』に関する詳細を以下に纏めておく。

〈新和英大辞典〉

| 書名 | 出版年 | 編集・執筆者 |
|--------------------------|--------|---|
| 『武信和英大辞典』 ¹ | (1918) | 武信由太郎 |
| 『新和英大辞典第2版』 ² | (1931) | 武信由太郎（編集主幹）喜安璣太郎（顧問）木村幹・増田綱・野尻正英・相良左・鈴木芳松（編集委員）後藤一郎・萩原恭平・花園兼定・岡部菅司・大宮英之介・小野健人・佐久間原・佐々木學（編集協力）George.B.Sansom（英文協力） |
| 『新和英大辞典第3版』 ³ | (1954) | 勝俣銓吉郎（編集主幹）喜安璣太郎（顧問）鈴木芳松・増田綱（編集主任）A.R. Boyce（英文校閲）羽柴正市・市川繁治郎・勝俣銓吉郎・増田綱・内藤三介・中山常雄・西村稠・大宮英之助・小澤準作・佐々木学・佐藤佐市・清水阿や・鈴木芳松・高部義信・田桐大澄・田中菊雄・上本佐一・渡辺秀雄・山田和男（執筆） |
| 『新和英大辞典第4版』 | (1974) | 増田綱（編集主幹）羽柴正市・小澤準作・山田和男（監修）市川繁治郎（編集主任）日南田一男・笈太郎・金子稔・Gene. Lehman・和田邦五郎（編集協力）千葉恒心・羽柴正市・日南田一男・市川繁治郎・岩田譲・笈太郎・金子稔・増田綱・水野清太郎・新島通弘・大村喜吉・ |

小澤準作・佐々木学・和田善太郎・山田
和男・山賀長治・横井正千代（執筆者）

『新和英大辞典第5版』（2003） 渡邊敏郎・Edmund.R.Skrzypczak・Paul
Snowden（編集）David Dutcher・Tom
Galley・石井久雄（編集委員）市川泰
男・植松靖夫・金子稔・沢村灌・須部宗
生・田辺宗一・原公章・日南田一男・廣
田典夫・渡邊敏郎・Stephen Boyd・
Martin Collick・David Dutcher・Tom
Gally・Mark Jewel・Anthony Mills・Mary
Ann Mooradian・Roger Northridge・Karen
Sandness・Laurel Seacord・David Shapiro・
Edmund.R.Skrzypczak・Paul Snowden・
David S. Spengler・James M. Vardaman（執
筆）石井みち江・瓜生佳代・清水由美・
村田美穂子（日本語執筆）

〈新和英中辞典〉

| 書名 | 出版年 | 編集・執筆者 |
|--------------------------|--------|--|
| 『新和英中辞典』 | (1933) | 岡倉由三郎 |
| 『新和英中辞典第2版』 ⁴ | (1963) | 増田綱（編集主幹）市川繁治郎・日南田 一男（原稿執筆）岩谷元輝・佐々木学・ 志賀謙・中林瑞松・橋本宏・千葉恒心 （編集協力）高部義信・外山滋比古（付録 執筆） ⁵ |

『新和英中辞典第3版』（1983） 市川繁治郎, R.M.V.Collick, 日南田一男,
牧雅夫（編集・執筆）

『新和英中辞典第4版』（1995） R.M.V.Collick, 日南田一男（編集） 米山
朝二・中村粲・高橋正夫・森松健介・霜
崎實（編集委員） 青木昭六・阿部宏・岩
村圭南・植松靖夫・Peter.A.Edwards・岡
田伸夫・R.M.V.Collick・佐野正之・霜崎
實・関屋康・高橋正夫・田辺宗一・Troy
Titterington・道正健太郎・中村粲・西田
正・日南田一男・牧雅夫・村上和賀子・
森田典正・森松健介・築取和紘・輪島士
郎（執筆者）

『新和英中辞典第5版』（2002） Martin Collick・David P. Dutcher・田辺宗
一・金子稔（編集） 青木昭六・石川幸光・
井上清・植松靖夫・Peter.A.H.Edwards・
緒方孝文・金子稔・Martin Collick・沢村
灌・霜崎實・関屋康・高橋正夫・田辺宗
一・David P. Dutcher・中村粲・廣瀬和
清・福岡忠雄・松沢伸二・松原陽介・南
太一郎・A.H.Mills・森田典正・森松健
介・築取和紘・米山朝二（執筆）

これを見て気が付くのは、現在の『研究社新和英大辞典』と『新和英中辞典』は基本的な成り立ち、即ち編集代表、が異なるということ、さらに言えば『武信和英辞典』が『新和英大辞典』と改称して第2版が出版されるのに13年という年月がかかっているが、『新和英中辞典』は名称こそ変更

されていないが第2版が出るまでに30年という、『新和英大辞典』の2倍強の年月がかかっているということ、さらに使用対象者が変更したことである。というのも、岡倉由三郎が新和英中辞典を編集したときの対象者は旧制中学校生（現在の中学生～高校生）であった。事実この当初の新和英中辞典の英語タイトル名は“Kenkyusha’s New School Dictionary (Japanese—English)”である。この傾向は新和英中辞典第2版の「はしがき」に「戦後の学制改革により旧制中学後半の二年と旧制高等学校前半の一年が新制高等学校となっているので、本辞典としては主にそれらの学習者を対象とすることになった。」とあることから、英語タイトル名もそのまま引き継がれた。ところが、『新和英中辞典第3版』では、それまでの対象者であった高校生だけではなく、大学生も含めるようになったことから、英語タイトル名を “Kenkyusha’s New School Dictionary (Japanese—English)” から “Kenkyusha’s New Collegiate Japanese—English Dictionary”へと変更⁵し、内容も一般社会人をも対象としたことで、それまでの学習和英辞典から上級和英辞典への脱却し、現在まで続いている。だが、一番大きな変化は『新和英中辞典第2版』のスタッフが岡倉由三郎の系統ではなく、武信由太郎の系統に変化したことである。というのも、『新和英中辞典の第2版』の編集主幹は『新和英大辞典第2版』の編集委員であり、『新和英大辞典第3版』の編集主任であった増田綱が編集主幹を、そして『新和英中辞典第3版』では『新和英大辞典第4版』で編集主任であった市川繁治郎、編集協力・執筆者の日南田一男が中心となり、『新和英中辞典第4版』までこの流れが続いていく。その後、日南田氏は『新和英大辞典第5版』に参加し、『新和英中辞典第5版』は『新和英中辞典第4版』で執筆者として参加した田辺宗一氏が『新和英中辞典第5版』の編集委員として、また『新和英大辞典第5版』の執筆者として参加する流れになっている。このことから、『新和英大辞典』と『新和英中辞典』は初版こそ系統が異なっていたものの、現在では（当初に比べれば）統一されたといえるだろう。ただし、『新和英大辞典第5版』について補足するならば、従来の『新和英大辞典』や『新

和英中辞典』とは異なり、編集責任者では3名中2名が、編集委員も3名中2名が、さらに執筆者も25名中14名の過半数がNative speakerであることから分かるように、それまでの編集責任者・編集委員・執筆者の殆どが日本人であったことを考えると、従来とは異なる全く新しい和英辞典へと変貌をとげた。なお、岡倉由三郎が昭和4年に『新英和中辞典』（後にスクール英和新辞典と改名）というやはり旧制中学生を対象にした英和辞典を出版しているが、これは1966年に福原麟太郎等によって『新スクール英和辞典』として改訂されるものの、翌年の1967年に岩崎民平らによって出版され、現在7版まで改訂されている『新英和中辞典』とは全くの別物であることも興味深い。

3 社号について

次に今回の調査対象である社号について簡単に述べていくことにする。

社号とは「神社の称号のこと。現在は七種あり、伊勢神宮のみに用いられ、その正式名称である「神宮」のほか、某神宮、某宮、某大社、某神社、某社、某大神宮がある」⁶とされている。では各社号の違いは何かというと、「某神宮とは基本的には皇祖神である天照御大神や神宝、或いは天皇を祀った神社であり、某宮は天皇や皇族を祀った神社、某大社は出雲大社を除けば第二次大戦後に旧官幣大社、若しくは国幣大社で使用されるようになった社号、某神社が一般的な社号、某社は分霊祠から発生した神社に使用する社号で、そして某大神宮は伊勢の神宮の分社の意味で使用される社号のこと」⁷である。なお、某の部分には各神社の名前が入る。以下に各辞書が「神宮」「某神宮」、「某宮」、「某大社」、「某神社」、「某社」、「某大神宮」をどのように記述しているか検討していくことにする。

4 「神宮」に関する記述

神宮に関する各和英大辞典・各和英中辞典に関する記述は以下の通りである。

- 『武信和英大辞典』 (1918) A Shinto shrine; the Great Shrine
伊勢大神宮 the Great Shrine of Ise
神宮司庁 the office of the Great Shrine.;
the Great Shrine Office 神宮に参拝する
to pay homage to the Great Shrine.
- 『新和英大辞典第2版』 (1931) A Shintô shrine ; [大神宮] 𠬪 dai-jingû.
明治神宮 the Meiji Shrine. 神宮司庁 the
office of the Great Shrine.; the Great Shrine
Office 神宮に参拝する worship before (pay
homage to) the Great Shrine.
- 『新和英大辞典第3版』 (1954) 1 [やしろ] a Shinto shrine 明治神宮 the
Meiji Shrine. 神宮外苑球場 the Meiji Shrine
Diamond; the Meiji Jingu [Baseball] Stadium;
the Outer Garden Ball Park 2 [大神宮] =
daijingû. 神宮に参拝する worship before
(pay homage to) the Great Shrine.
- 『新和英大辞典第4版』 (1974) 1 [やしろ] a Shinto shrine 明治～the Meiji
Shrine. ～外苑球場 the Meiji Shrine
Diamond; the Meiji Jingu [Baseball] Stadium;
the Outer Garden Ball Park 2 [大神宮] = Dai-

jingū. ～に参拝する worship before (pay
homage to) the Great Shrine.

『新和英大辞典第5版』 (2003) 1 [やしろ] a Shinto shrine 明治～the Meiji
Shrine / ～外苑球場 the Meiji Shrine
Diamond; the Meiji Jingu (Baseball) Stadium;
the Outer Garden Ball Park 2 [大神宮] = だい
じんぐう▷～に参拝する visit and worship
before (pay homage) at the Great Shrine.

『新和英中辞典』 (1933) a Shintô shrine. 明治神宮 the Meiji Shrine.

『新和英中辞典第2版』 (1963) a Shinto shrine. 明治神宮 the Meiji Shrine
神宮球場 the Jingu Stadium.

『新和英中辞典第3版』 (1983) a Shinto shrine. 明治神宮 the Meiji Shrine
神宮球場 the Jingu Stadium

『新和英中辞典第4版』 (1995) a Shinto shrine. 明治神宮 the Meiji Shrine
神宮球場 the Jingu Stadium

『新和英中辞典第5版』 (2002) a Shinto shrine. 明治神宮 the Meiji Shrine
神宮球場 Jingu Stadium

これを見ると、『新和英大辞典』では第2版から伊勢神宮に関する記述
がなくなり、大神宮への言及が出るようになった。また、「～に参拝する」
の訳語として初版で扱われていた“pay homage to”だけではなく、“worship
before”という記述も現れてきた。第3版からは神宮司庁は別項目になって

いる。同時に神宮外苑球場への言及も第3版で初出した。第4版は細かい点（「明治神宮」と表記するのではなく、「明治～」のように省略形の使用、ローマ字の *daijingū* の最初の文字を大文字化、さらに *Dai-jingū* と大と神宮の間に「—」の挿入等）を除けば第3版と全く同じである。第5版は第4版の流れを汲んでいるが、大神宮の表記がローマ字からひらがなに変更された点を除けば、細かい違い（明治～*the Meiji Shrine* と～外苑球場の間にスラッシュ（／）の挿入）でしかない。『新和英中辞典』に関しては第2版ではじめて神宮球場が扱われた以外は基本的には変更されていない。細かく言えば、初版では *Shintō* と長音であったが、第2版以降は *Shinto* と単音に、2版から4版までは神宮球場の訳語の前に定冠詞 *the* が置かれていたが、第5版では削除された。なお、神宮とは本来、神宮（伊勢）を指し、上記に挙げられている例は全て「某神宮」の例である。また、一般には外宮と内宮を合わせて伊勢神宮と言っているが、正式には伊勢神宮といった場合は外宮と内宮は勿論だが、両宮に関係のある別宮や支社・末社を含む125社すべてを含んだ呼称であることにも注意したい。

5 「某神宮」に関する記述

某神宮に関する各和英大辞典、和英中辞典の結果は以下の通りであった。

『武信和英大辞典』 (1918) 該当項目なし

『新和英大辞典第2版』 (1931) 該当項目なし

『新和英大辞典第3版』 (1954) 該当項目なし

『新和英大辞典第4版』 (1974) 該当項目なし

『新和英大辞典第5版』 (2003) 該当項目なし

『新和英中辞典』 (1933) 該当項目なし

『新和英中辞典第2版』 (1963) 該当項目なし

『新和英中辞典第3版』 (1983) 該当項目なし

『新和英中辞典第4版』 (1995) 該当項目なし

『新和英中辞典第5版』 (2002) 該当項目なし

『新和英大辞典』は初版～5版及び『新和英中辞典』も初版～5版の全てにおいて「某神宮」に関する記述は一切記述されていない。ただし、『新和英大辞典』は初版では神宮（伊勢）の例が扱われていたが、第2版以降は神宮の内容は大神宮の項目に移り、事実上ここは某神宮の例である明治神宮が扱われている。なお、初版では項目としては「神宮」を、例としては「某大神宮」の例をあげているが、「神宮」と「某大神宮」のことについて特別意識しているようには思われない。また、『新和英中辞典』は「神宮」の項目に挙げられている例が全て「明治神宮」であることから、実質には神宮の項目が某神宮の例になっているものと考えられる。

6 「某宮」に関する記述

「宮」は一般には「みや」と呼ばれることが多いが、社号としては「ぐう」の読み方が正しい。しかし、実際には「宮」が「みや」と呼ばれることが多いので、ここでは「宮」の正式な読み方である「ぐう」を先に調査し、その後「みや」を調査した。

『武信和英大辞典』 (1918) (ぐう) 該当項目なし
(みや) 1 〔神社〕 A (Shinto) shrine.
宮に詣でる to worship at a shrine; pay
homage to a shrine.
2 〔皇居〕 The Imperial Palace; the Court
3 〔皇族〕 An Imperial prince (princess); a
prince (princess) of the blood.
閑院宮 Prince Kan-in

『新和英大辞典第2版』 (1931) (ぐう) 該当項目なし.
(みや) 1 〔神社〕 A (Shinto) shrine; 〔神棚
の〕 a miniature shrine. 弁天を祀った宮
a shrine dedicated (sacred) to Benten.
宮に詣でる worship at a shrine; pay
homage to a shrine.
2 〔皇居〕 The Imperial Palace
3 〔皇族〕 An Imperial prince (princess);
a prince (princess) of the blood.
閑院宮殿下 His Imperial Highness Prince
Kan-in 空の(山の)宮様 the Flying
(Climbing) Prince

『新和英大辞典第3版』 (1954) (ぐう) 該当項目なし
(みや) 1 〔神社〕 A (Shinto) shrine; 〔神だ
なの〕
a miniature shrine. 宮に詣でる worship
at a shrine; pay homage to a shrine. 2 〔皇
居〕 the Imperial Palace 3 〔皇族〕 an

Imperial prince (princess) : a prince
(princess) of the blood. 高松宮 Prince
Takamatsu 空の (山の) 宮様 the Flying
(Climbing) Prince

『新和英大辞典第4版』 (1974) (ぐう) 該当項目なし
(みや) 1 [神社] A (Shinto) shrine;
[神だなの] a miniature shrine.
～巡りをする make a pilgrimage to
shrines. ～師 a miniature-shrine maker
2 [皇族] an Imperial prince (princess) ;
a prince (princess) of the blood.
高松の～ Prince Takamatsu

『新和英大辞典第5版』 (2003) (ぐう) 該当項目なし
(みや) 1 [神社] A (Shinto) shrine;
[神だなの] a miniature shrine
2 [皇族] an Imperial prince (princess) ;
a prince (princess) of the blood.
高松の～Prince Takamatsu／天皇陛下の弟
a younger brother of the Emperor.
宮師 a miniature-shrine maker 宮参り⇒み
やまいり 宮巡り«make»a pilgrimage to
shrines.

『新和英中辞典』 (1933) (ぐう) 該当項目なし
(みや) [神社] A (Shinto) shrine.
[皇族] An Imperial prince (princess)

『新和英中辞典第2版』（1963）（ぐう）該当項目なし
（みや）〔神社〕 A (Shinto) shrine.
〔皇族〕 an Imperial prince (princess) ;
三笠宮 Prince Mikasa

『新和英中辞典第3版』（1983）（ぐう）該当項目なし
（みや）〔神社〕 A (Shinto) shrine.
〔皇族〕 an Imperial prince (princess) ;
三笠宮 Prince Mikasa

『新和英中辞典第4版』（1995）（ぐう）該当項目なし
（みや）〔神社〕 A (Shinto) shrine.
〔皇族〕 an Imperial prince (princess) ;
三笠宮 Prince Mikasa

『新和英中辞典第5版』（2002）（ぐう）該当項目なし
（みや）〔神社〕 A (Shinto) shrine.
〔皇族〕 an Imperial prince (princess) ;
三笠宮 Prince Mikasa

『新和英大辞典』は「ぐう」に関しては初版から5版まで一切扱っていなかった。「みや」に関しては、『新和英大辞典』は第2版になって「神棚の a miniature shrine」と言う表現が掲載された。初版では皇居の項目に the Court を記述していたが、第2版以降これは削除されている。また、皇族の例として初版と第2版は閑院宮を挙げているが、初版が閑院宮だけであったのに対し、第2版ではわざわざ殿下という敬称をつけており、訳語にも His Imperial Highness をあてている。第2版では弁天を祀った宮 a shrine dedicated (sacred) to Benten. が記述されているが、これに関しては第3版

以降一切記述されていない。また、第2版から第3版にかけて空の（山の）宮様 the Flying (Climbing) Prince というのがあるが、何故このような表記が出たのかは不明である。また、第3版からは皇族の例として閑院宮ではなく、高松宮に変更されている。変更の理由は、第2版まで扱われていた閑院宮とは「閑院宮載仁親王（かんいんのみや ことひとしんのう、慶応元年9月22日（1865年11月10日）-昭和20年（1945年）5月20日）のことだ」とおもわれるが、『新和英大辞典第3版』（1954）には既に亡くなっていたために入れ替えたものと思われる。『新和英大辞典』では第4版以降「宮師」といった表現が記載されるようになった。第5版では初めて宮の定義、即ち天皇の弟を記述し、さらに宮参りにも言及するようになった。『新和英中辞典』は基本的に初版から5版までの記述に変化はないものの、第2版以降皇族の例として「三笠宮」が記述されている。なお、『新和英大辞典』は第3版以降宮家の例として「高松宮」を挙げているが、『新和英中辞典』は第2版以降～第5版まで一貫して「三笠宮」を上げているのも興味深い。

7 「某大社」に関する記述について

大社とは基本的には「出雲大社」をさし、出雲大社を除けば第二次世界大戦後に旧官幣大社、若しくは国幣大社で使用されるようになった社号のことである。つまり、実際には春日大社、熊野那智・熊野速玉・熊野本宮大社、多賀大社、日吉大社、松尾大社と「大社号」の付く神社はいくつかあるが、このように呼ばれるようになってから、まだ60数年しかたっておらず、（出雲大社と比較すると）新しい社号ということが出来るだろう。以下、各『新和英大辞典』や『新和英中辞典』がこのことをどのように記述しているのかを見てみよう。

『武信和英大辞典』 (1918) 該当項目なし

| | | |
|-------------|--------|---|
| 『新和英大辞典第2版』 | (1931) | A grand shrine. 出雲大社 the Grand Shrine of Izumo |
| 『新和英大辞典第3版』 | (1954) | 1 [第一等の格式の神社] a grand shrine. 2 [出雲大社] the Grand Shrine of Izumo |
| 『新和英大辞典第4版』 | (1974) | 1 [第一等の格式の神社] a grand shrine. 2 [出雲大社] the Grand Shrine of Izumo |
| 『新和英大辞典第5版』 | (2003) | 1 [第一等の格式の神社] a grand shrine. 2 [出雲大社] the Grand Shrine of Izumo |
| 『新和英中辞典』 | (1933) | 該当項目なし |
| 『新和英中辞典第2版』 | (1963) | 該当項目なし |
| 『新和英中辞典第3版』 | (1983) | 該当項目なし |
| 『新和英中辞典第4版』 | (1995) | 該当項目なし |
| 『新和英中辞典第5版』 | (2002) | 〈名高い神社〉 a large-scale and venerable Shinto shrine. 出雲大社 the Grand Shrine of Izumo |

『新和英大辞典』で大社に関する項目が出たのは第2版が最初であり、大社に関する詳細な説明（1 [第一等の格式の神社] 2 [出雲大社]）は第3版になってからである。なお、これ以降の変化は今日までない。『新和英中辞典』において大社が扱われたのは第5版がはじめてである。なお、「大

社」の定義として『新和英大辞典』が「第一等の格式の神社」としているのに対し、『新和英中辞典』は「名高い神社」としているのは興味深い。もっとも、このいずれの定義では「神宮」「宮」「大社」といった他の社号との区別が付きにくいので、決して良い定義の仕方であるとは言えない。『新和英大辞典』及び『新和英中辞典』を通して、大社の例として出雲大社だけが記載されてること、さらに大神宮の項目でも触れるが、伊勢神宮を訳出する時は Ise の前に使用される前置詞は明確でないものの、出雲大社の場合は常に前置詞“of”が使用されていることも興味深い。

8 「某神社」に関する記述について

現存する多くの神社がこの「社号」である。この社号のことについては『新和英大辞典』と『新和英中辞典』はどのような記述をしているのか以下を見てみよう。

| | | |
|-------------|--------|--|
| 『武信和英大辞典』 | (1918) | A shrine; A Shintô shrine (temple) 靖国神社 the Yasukuni Shrine. 神社局 the Shrines Bureau 神社に詣でる to visit (go to) a shrine; pay homage to a shrine |
| 『新和英大辞典第2版』 | (1931) | A Shintô shrine (temple) 靖国神社 the Yasukuni Shrine. 神社局 the Shrines Bureau |
| 『新和英大辞典第3版』 | (1954) | A Shintô shrine (temple) 靖国神社 the Yasukuni Shrine |

| | |
|-------------------|---|
| 『新和英大辞典第4版』(1974) | A Shintô shrine (temple) 靖国～the Yasukuni Shrine ～建築 Shinto architecture |
| 『新和英大辞典第5版』(2003) | A Shintô shrine (temple) 靖国～the Yasukuni Shrine～に詣でる go to worship at a shrine. ～の境内 the grounds [precincts] of a shrine 神社建築 Shinto architecture 神社神道《日本史》[教派神道に対して] shintorism based on government-organized shrines；[国家神道] State Shinto (ism). 神社仏閣 (Shinto)shrines and (Buddhist)temple |
| 『新和英中辞典』(1933) | a Shinto shrine (temple)靖国神社 the Yasukuni Shrine. |
| 『新和英中辞典第2版』(1963) | a Shinto shrine (temple)靖国神社 the Yasukuni Shrine. |
| 『新和英中辞典第3版』(1983) | a Shinto shrine 神社仏閣 (Shinto)shrines and (Buddhist) temples／靖国神社 the Yasukuni Shrine. |
| 『新和英中辞典第4版』(1995) | a Shinto shrine (temple) 靖国神社 the Yasukuni Shrine 神社仏閣 (Shinto)shrines and (Buddhist) temples |

『新和英中辞典第5版』(2002) a Shinto shrine (temple)靖国神社 the
Yasukuni Shrine 神社仏閣 (Shinto) shrines
and (Buddhist) temples

『新和英大辞典』では初版では神社の定義、靖国神社、神社局、神社に詣でるが記述されていたが、第2版ではこのうち「神社に詣でる」が削除された。第3版では更に神社局が別項目になったことで、記述は定義と靖国神社しか記載されていない。第4版になると第3版の記述に初めて神社建築の項目が加わった。第5版では第4版の記述に、第2版までに記載されていた「神社に詣でる」が再登場した。その他に神社の境内や神社神道、国家神道、神社仏閣といったどちらかと言えば事典的な内容をもった表現が掲載されるようになった。『新和英中辞典』は第1版と第2版の記述は全く同じである。ともに Shinto shrine の後に (temple) が記入されている。これは Shinto shrine でも Shinto temple でもどちらでも同じように使用できるとの考えから併記しているものと思われる。第3版は基本的には第1、第2版の流れを汲んでいるものの、この temple への言及がなくなり、その代わり神社仏閣という項目が初出した。ここでははっきりと神社は (Shinto) shrine に、仏閣は (Buddhist) temple と分離した。第4版は基本的に第3版の流れを汲むものの、神社仏閣に関する言及は神社の例である靖国神社の後に置くようになった。第5版は第4版と全く同一の記述である。ここで、興味深いのは、『新和英大辞典』は『新和英中辞典と比較すれば、その規模からどうしても事典的な内容を含まざるを得ないが、「神社仏閣」という表現に関しては『新和英大辞典』では第5版になって初出した表現であるのに対し、『新和英中辞典』が第3版を皮切りに現在の第5版まで扱っているということである。また、『新和英大辞典』・『新和英中辞典』を問わず神社の例として「靖国神社」が一貫して扱われているが、これについてはやや疑問を感じる。その理由は、本来神社は神宮（伊勢）を本宗とし、神社本庁（日本全国8万社の神社を包括する宗教法人）に加盟しているが、

靖国神社だけは東京都知事認証の単立神社（単立宗教法人）だからである。これの何が問題なのかといえば、靖国神社を除く全ての神社は日本古来の神々を祭っているのに対し、靖国神社はその創建当初から「天皇・朝廷・政府側の立場で命を捧げた」戦没者や英霊を祭っているからである。誤解のないように断っておくが、私は決して靖国神社の存在について正否を述べているのではない。そうではなく、私が言いたいのは辞書のような書籍というものは、常に政治的な立場からは中立であり、記述においても客観的な立場が求められるのではないかということである。ところが靖国神社は、好むと好まざるに関係なく、常に政治的な問題に関係する立場にある。このように考えていくと、神社の例として敢えて靖国神社を例に残すのはやや疑問があるように感じられる。

9 「社」に関する記述について

「社」は一般的には「やしろ」と呼ばれることが多いが、社号としての正式な読み方は「しゃ」である。そこで、本稿では「社」の正式な読み方である「しゃ」を先に調査し、その後「やしろ」を調査した。

『武信和英大辞典』(1918) (しゃ)① [神社] a Shinto shrine (temple) ② [結社] An association;a society ③ 蕃社 a tribe (of savages) ④ [会社・新聞社など] A company (会社); a firm (商社); an office (事務所) 報知新聞社 The Hochi Shimbun Office 社のほうは忙しいですか。 Are you busy in your office? この人達は僕の社の人です。 There are my colleagues in the company. (やしろ) a Shinto shrine;a temple.

『新和英大辞典第2版』(1931) (しゃ) ①[神社] a Shinto shrine (temple) ②
 [結社] An association;a society ③蕃社
 a tribe (of savages) ④ [会社・新聞社な
 ど] A company 《米》 a corporation; a firm;
 an office 社のほうは忙しいですか. Are
 you busy in your office? この人達は僕
 の社の人です。 There are my colleagues
 in the company.
 (やしろ) a [Shinto]shrine;a temple.

『新和英大辞典第3版』(1954) (しゃ) ①[神社] a Shinto shrine (= temple)
 ② [結社] an association;a society ③蕃社
 a tribe (of savages) ④ [会社・新聞社な
 ど] A company 《米》 a corporation; a
 firm ; [事務所] an office ラトレッジ社
 から本を出す publish a book through
 Messrs. Routledge 社のほうはお忙し
 いですか. Are you busy in your office?
 この人達は僕の社の人です。 There are
 my colleagues in the company.
 (やしろ) a [Shinto]shrine;a temple.

『新和英大辞典第4版』(1974) (しゃ) ①[神社] a Shinto shrine ② [結社]
 an association;a society ③蕃社 a tribe
 «of savages»④ [会社・新聞社など] a
 company 《米》 a corporation; a firm; [事
 務所] an office 社のほうはお忙しい
 ですか. Are you busy in your office?

この人達は僕の社の人です。There are
my colleagues in the company.

(やしろ) a (Shinto) shrine

『新和英大辞典第5版』(2003) (しゃ) ① [神社] a Shinto shrine ② [結社]
an association; a society ③ [会社・新聞
社など] a company; a corporation; a firm
僕に用事があったら～の方に連絡して
くれ。Get in touch with me at the office if
you need to contact me. ～の者をそちら
に向かわせます。I will send someone
from the office to meet you.

(やしろ) a Shinto shrine

『新和英中辞典』(1933) (しゃ) [神社] a [Shintô] shrine; [会社
等] a company; [結社] a society 社長 the
president; the director. 社中 the staff of an
office; the members of a company. 社員 a
[regular] member; a clerk; a partner (組合
員); the staff (総称) タイムス新聞社
員となる join the staff of the Times

(やしろ) a [Shintô] shrine; a temple.

『新和英中辞典』 (1963) (しゃ) 該当項目なし

(やしろ) a [Shinto] shrine

『新和英中辞典第3版』(1983) (しゃ) 該当項目なし

(やしろ) a (Shinto) shrine

『新和英中辞典第4版』(1995) (しゃ) ⇒かいしゃ 社内⇒しゃない 該
当項目なし

(やしろ) a (Shinto) shrine

『新和英中辞典第5版』(2002) (しゃ) ⇒かいしゃ 社内⇒しゃない 該
当項目なし

(やしろ) a (Shinto) shrine ちんじゅ (鎮守
の社)

『新和英大辞典』では初版では「やしろ」は a Shinto shrine;a temple. と記述されていたが、第2版、第3版では a [Shinto]shrine と Shinto を[]で括るようになった。第4版でもこの傾向は続くものの、第5版では初版同様に[]のない状態での記述になった。なお、初版から3版までは a temple という記述もあったが、第4版以降は削除された。また、『新和英大辞典』の初版から5版におけるまで、最初に扱われる定義は「神社」である。その他の定義は第4版までは〔結社〕 蕃社 〔会社・新聞社など〕の順で記述されていた。このうち、第5版では蕃社が削除された。また、〔会社・新聞社など〕では初版では会社、商社、事務所と用途に応じて語彙が変わるという懇切丁寧な表示をしていたが、第2版では一時この記述が全て削除された。その代わり、第2版では米語の corporation が初出した。第3版ではこの記述の他に office だけが〔事務所〕という表示（これは既に初版で記述されていたもの）が再度採用され、以後4版にもこの記述はある。また、この項目は〔会社・新聞社など〕という表示があるものの、実際に「新聞社」についての記述があったのは初版の「報知新聞社」だけで、以後2版～5版までは新聞社に関する直接的な記述はない。例文は初版～第4版までは基本的に「社のほうはお忙しいですか。Are you busy in your office? この人達は僕の社の人です。There are my colleagues in the company.」が掲載されているが、例外は第3版でここでは「トレッジ社から本を出す publish a

book through Messrs. Routledge」という例文が記載されている。ただし、この例文は第3版だけで以後第4版・第5版では一切扱われていない。第5版は先に述べたように蕃社という項目を削除し、[会社・新聞社など]の訳語として挙げられていた office を削除（これに伴い「事務所」と言う表示も削除）したほか、例文もそれまでの者とは異なった表現に差し替えている。恐らくこれは「蕃社」というのが「台湾先住民族（高山族）の部落や集団に対する日本統治時代の呼称」⁸である、つまり蔑称であるために省略されたものと思われる。

『新和英中辞典』では「しゃ」に関しては神社に関する記述があったのは初版だけで後は一切言及されていない。それどころか、第2版、第3版においては「社」という項目自体が存在しなかった。第4版、第5版においてはかろうじて「社」という項目は復活したものの実際には、「会社」の略語や「会社の中」を現す「社内」の項目検索のために存在するだけで、神社に関する記述は勿論、まともな記述は何一つされていない。「やしろ」に関しては基本的には初版から第5版までそれほど大きな違いはない。ただ、初版では a [Shintô] shrine の同意表現として a temple. が並列されていたが、第2版以降は削除された。また、第5版では例文はないものの、「ちんじゅ（鎮守の社）」という記述が付け足されている。

10 「某大神宮」に関する記述

「某大神宮」とは「東京大神宮」「芝大神宮」「一宮大神宮」のように「神宮」（伊勢）の分社の意味で使用されるものである。なお、「神宮」（伊勢）の尊称として「大神宮」というのは確かに存在するが、その場合は上記に挙げた「某大神宮」と区別するために「伊勢」という地名はつけず単に「大神宮」と呼ぶのが正式である。このことについて各『新和英大辞典』や『新和英中辞典』がどのように記述しているかを見てみよう。

| | | |
|-------------|--------|---|
| 『武信和英大辞典』 | (1918) | A shrine dedicated to the Sun-Goddess 伊勢太神宮 the Grand Shrines of Ise |
| 『新和英大辞典第2版』 | (1931) | A shrine dedicated to the Sun-Goddess 伊勢大神宮 the Grand Shrines at Ise |
| 『新和英大辞典第3版』 | (1954) | A shrine dedicated to the Sun-Goddess 伊勢大神宮 the Grand Shrines at Ise |
| 『新和英大辞典第4版』 | (1974) | 伊勢～ Grand Shrines at Ise |
| 『新和英大辞典第5版』 | (2003) | a major[Grand] Shinto shrine 伊勢～ Grand Shrines at Ise |
| 『新和英中辞典』 | (1933) | [伊勢] 大神宮 The Grand Shrine at Ise |
| 『新和英中辞典第2版』 | (1963) | 該当項目なし |
| 『新和英中辞典第3版』 | (1983) | 該当項目なし |
| 『新和英中辞典第4版』 | (1995) | a grand (Shinto) shrine 伊勢大神宮 the Grand Shrines of Ise |
| 『新和英中辞典第5版』 | (2002) | a grand (Shinto) shrine 伊勢大神宮 the Grand Shrines of Ise |

『新和英大辞典』初版～第3版までは大神宮の定義—A shrine dedicated to the Sun-Goddess、即ち天照大神に捧げられた神社—が記述されていたが第4版以降からこの記述は作上された。また、初版は伊勢太神宮と「太」と

いう字を使用していたが、第2版以降は「大」という字に変更している。訳出としては、初版はthe Grand Shrines of Ise と前置詞 of を使用していたが、第2版～第5版は全て the Grand Shrines at Ise と前置詞 at を使用している。補足であるが、第5版は大神宮の定義として a major[Grand] Shinto shrine としているが、伊勢大神宮の訳語として the Grand Shrines と Grand を使用しているにも拘らず、定義では major を優先しているのは興味深い。『新和英中辞典』では大神宮の事を扱っているのは、初版、第4版、第5版の三冊だけである。第2版、第3版では項目そのものが存在しなかった。この初版、4版、5版で扱われているのはともに神宮（伊勢神宮）のことであるが、初版が地名 Ise（伊勢）の前で使用している前置詞が at であるのに対し、4版と5版では of を使用している。これは『新和英大辞典』が初版だけが前置詞 of を使用していたものの、第2版以降は全て at に変更しているのに対し、『新和英中辞典』は、初版は前置詞に at を使用していたのが、第4版、5版（第2版と第3版は項目自体が存在しない）と of を使用しており、まさに『新和英大辞典』と『新和英中辞典』で反対の記述になっている。では、Ise の前に使用される前置詞としては“at”と“of”のどちらが正しいのだろうか。私的には、単なる一都市に存在する神宮として考えるのであれば、前置詞“at”でかまわないだろう。しかし、この考え方では神宮号の前に地名を付ける熱田神宮や檜原神宮なども同様に“Grand Shrines at Atsuta”や“Grand Shrines at Kashiwara”のような訳出も可能になるだろう。では、“of”ではどうだろうか。この場合も「場所への帰属」を示す“of”と考えた場合は、単なる一地方都市、しかも土着の宗教というイメージを与えるかもしれない。しかし、この“of”の原義である「出自」を示す“of”、すなわち“from”や“out of”の意味で考えていくのであれば、“at”よりも“of”の方が適切であるといえるだろう。ただし、その意味で、“of”を使用するのであれば、日本の神社はすべて神宮（伊勢）を本宗としているため、出雲大社の訳出で使用される前置詞は現在の“of”ではなく、“at”を使用しなくてはならない。また、初版の表記は「大神宮」とあることから、大神宮という言葉自体が

既に「伊勢神宮」を指すものと理解しており、読者にそのことを伝えるためあえて「伊勢」という表記を「大神宮」の前に記述したと思われる。ただし、第4版、第5版の編集者はその事をわからずにそのまま、伊勢大神宮という表記をしているものと思われる。なお、神宮（伊勢）のことを大神宮という尊称で呼ぶことがあるが、その場合は大神宮の前に伊勢という地名はおかずに呼ぶのが正しいし、この場合の大神宮は尊称であって社号ではないことも忘れてはならない。

11 まとめ

これまでの経過を見て判明したことは、従来の記述を踏襲する傾向が強く、詳細に検討・訂正した新記述はあまりなされていないということである。具体例をあげると以下になる。

- ① 神宮と大神宮の違いが理解されていない。
- ② 大神宮と大社の訳出方法が共に“Grand Shrine”と同じであり、その違いが不明確である。
- ③ 神宮・宮・神社・社は共に“Shinto shrine”と同じであり、その違いが不明確である。
- ④ 『武信和英大辞典』では神宮の例として伊勢大神宮一表記としては問題あるものの一が扱われていたが、『新和英大辞典第2版』以降は大神宮という別項目が立てられ、以後そのまま表記されている。
- ⑤ 『新和英中辞典』では初版以来「神宮」の例として明治神宮があげられている。
- ⑥ 「宮」は訓読みの「みや」でしか検索できないのに対し「社」は訓読み音読みのいずれでも検索できる。
- ⑦ 『新和英大辞典』及び『新和英中辞典第5版』では、他の社号は一切説明がないのかかわらず「大社」だけ説明されている。
- ⑧ 『新和英大辞典』及び『新和英中辞典』とも初版以来、神道とは若干趣

の異なる「靖国神社」を神社の例としてあげている。

- ⑨ 『新和英大辞典』及び『新和英中辞典』で訳出される英語に関しても必ずしも統一した見解が取られていないことも判明した。それは、神宮（伊勢）－『新和英大辞典』及び『新和英中辞典』では「大神宮」の項目になるが－を英語にしたときに、地名である伊勢の前に置かれる前置詞の種類についてである。『新和英大辞典』は初版である『武信和英大辞典』においては“the Grand Shrines of Ise”と前置詞“of”が使用されていたのが、『新和英大辞典』第2版以降は“the Grand Shrines at Ise”と前置詞“at”を使用し現在まで続いている。しかし、『新和英中辞典』は『新和英大辞典』とは逆に初版では“the Grand Shrines at Ise”と前置詞“at”を使用していたのが、第4版以降に“the Grand Shrines of Ise”と前置詞“of”を使用していることからわかるだろう。

なお、紙数の関係で省略するが、このような社号に関する説明に関しては各国語辞典も同様にあいまいであること、さらに今回調査した研究社の和英辞典類に限らず、どの和英辞典も各国語辞典の記述を参考に訳出していることを付け加えておく。

我々はつい他国の事象については注意を払うものの、自国の文化のことになると意外なほど無知な場合が少なくない。しかし、現在はグローバル化が叫ばれ、自ら発信する力を求められている今日、和英辞典が従来の役割－即ち単純に日本語を英語にする－を持つだけではなく、積極的に自国の文化を伝えていく必要性を考えると、きちんとした背景的な知識を我々自身が正確に理解しておくことは必要不可欠なはずである。ぜひ、そのようなことも踏まえ、和英辞典には自国に関する正確な記述をしていかなければならないし、できれば各専門分野の諸先生方に校閲だけでなく、記述してもらうべきである。

注

- 1 この本のタイトルは『武信和英大辞典』と現代の『新和英大辞典』とは異なる書名であるが、研究社及び後に出版された新和英大辞典ではこの『武信和英大辞典』を初版として扱っているので、本稿もこれを初版として扱った。
- 2 厳密に言えば、『武信和英大辞典』は1920年に『大改訂版』と銘うった辞典が存在する。しかし、研究社及び後に出版された『新和英大辞典』では1931年に出版した『新和英大辞典』を第2版として扱っていることから、本稿もこれを第2版として扱った。
- 3 1949年に1931年版の増補版が出版されてはいるが、研究社及び後に出版された『新和英大辞典』では1954年版を第3版としているので、本稿もこれを第3版として扱った
- 4 厳密に言えば、『新和英中辞典』は1952年にスクール和英新辞典と改名されたので、これを第2版と考える人がいるかもしれないが、『新和英中辞典』の初版と『スクール和英新辞典』は装丁と名称の変更の差はあるが、実質的な中身の変更がないこと、さらに研究社自体が1963年に出版された『新和英中辞典』を第2版として扱っているので、本稿もこれを第2版として扱った。
- 5 第4版より『新和英中辞典』の英語名は“Kenkyusha’s New College Japanese—English Dictionary”へと改名され、現在まで使用されている。
- 6 国学院大学日本文化研究所：『神道辞典縮刷版』，P180，弘文堂
- 7 小野祖教著・渋川謙一改訂：『改訂補註神道の基礎知識と基礎問題』，PP82－85，神社新報社
- 8 『広辞苑』（第6版），P2318，岩波書店